

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13331

研究課題名（和文）古代・中世の除目研究の基盤形成とその政治制度史的考察 - 三条西家の除目書を中心に -

研究課題名（英文）The formation of the basic studies of jimoku from ancient to medieval times, and the study as its political systems; Focusing on jimoku texts held by the SanjyoNishi family

研究代表者

志村 佳名子 (SHIMURA, kanako)

信州大学・学術研究院教育学系・准教授

研究者番号：00759665

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、明治大学中央図書館所蔵『除秘鈔』に付随する除目書である『無外題春除目』について検討し、この除目書が天文年間に三条西家で書写されたこと、内容は甲・乙二種類の除目書が混在し、甲群は九条良経編『春除目抄』とほぼ同内容を持つもので、乙群は九条家流の除目作法に関する問答形式の故実書であることを明らかにした。

また、乙群は石川県立歴史博物館所蔵の「畠山義総関係文書」の一部の紙背と密接に関係すること、三条西家では公保・実隆・公条の三代にかけて撰閲家相伝の除目書の閲覧・書写が行われ、その過程で当該史料が書写されたこと、三条西家が二条家経由で九条家流作法を伝承していた可能性が高いことを論証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

三条西家所蔵の各種史料群の価値は広く知られていなかったものの、本研究が対象とする除目書に関してはこれまでほぼ言及がなく、本研究が三条西家所蔵の儀式書に関する初めての本格的なアプローチとなった。従来除目のまとまった儀式書については、九条家本『春除目抄』や洞院公賢編『魚魯愚鈔』、『魚魯愚別録』などの刊本が知られるのみで、除目研究自体も低調であったが、本研究によって三条西家旧蔵『無外題春除目』の翻刻及び書誌的考察を学界に公表することにより、古代から中世にかけての除目研究および公家研究の活性化に寄与することができたと考える。

研究成果の概要（英文）：This study examined the “Mugedai-harujimoku”, which is a jimoku text of the “Jyohisyo” held by the Meiji University Central Library, and clarified that this text was copied by the SanjyoNishi family in the Tenbun era as well as that the contents are a mix of two types of jimoku texts, A and B, with Group A having nearly the same contents as the “Harujimokusyo”, edited by Kujo Yoshitsune and Group B being a book on the Kujo family's jimoku rules in a question and answer format.

Moreover, the paper argues that Group B is closely related to the reverse sides of some of the “Hatakeyama Yoshifusa Documents” held by the Ishikawa Prefectural Museum of History, that the SanjyoNishi family read and copied the jimoku texts passed down by the regents, that the relevant historical materials were copied in this process, and that it is highly likely that the SanjyoNishi family inherited the Kujo family's ceremonial rules through the Niijo family.

研究分野：日本古代史

キーワード：除目 宮廷儀礼 三条西家 九条家 故実

1. 研究開始当初の背景

除目とは、官職に任命する儀式をいう。平安時代に編纂された『西宮記』等の総合的な儀式書に加え、『除目抄』『魚魯愚鈔』などの除目に特化した史料には、詳細な除目の儀式次第が記載される。これらの史料からは、除目の儀式が平安時代の支配者層 (= 貴族) にとって、最重要の儀式であると認識されていたことがうかがえる。除目の作法は次第に洗練され、それぞれの家の作法 (流派) が形成されて、中世以降も公家社会の重要儀式として行われ続ける。よって、除目書の形成過程は古代・中世の朝廷政治を考える上で重要な史料といえるが、研究史上、院政期以降政治の主体が公家から武家に移行することもあり、また除目に関する史料の難解さのため、儀式書の解読はおろか、史料の写本の整理もさほど進んでいないのが現状である。そこで、除目関連の史料の写本系統を整理し、重要なものは翻刻し、その書誌的性格を解明することで、幅広い研究者の利用に供するという基礎的研究が必要となる。

平安時代の政治制度史研究は、A. 政変や皇位継承をめぐる政治史からみた政治構造研究 (倉本一宏『摂関政治と王朝貴族』吉川弘文館、2000年など)、B. 年中行事などの宮廷儀礼研究 (山中裕『平安朝の年中行事』塙書房、1972年など)、C. 儀式書の書誌を解明する儀式史料研究 (所功『平安朝儀式書成立史の研究』国書刊行会、1985年など) の分野に大別できる。それぞれ重要な研究分野であるが、分野ごとの独立性が強く、ことに除目は儀式研究の一部として文化的側面のみを強調されがちである。しかし、除目と除目書の編纂は、A～Cすべての分野に関係する要素であり (図1) また除目の責任者をつとめるのは摂関・関白も含む筆頭の公卿であるため、文化面だけではなく政治制度としての側面も重視すべきである。

そこで本研究では従来未検討であった三條西家に残存する除目書の検討を通して除目研究の基盤を構築し、除目儀式を政治制度として位置付けて検討する。

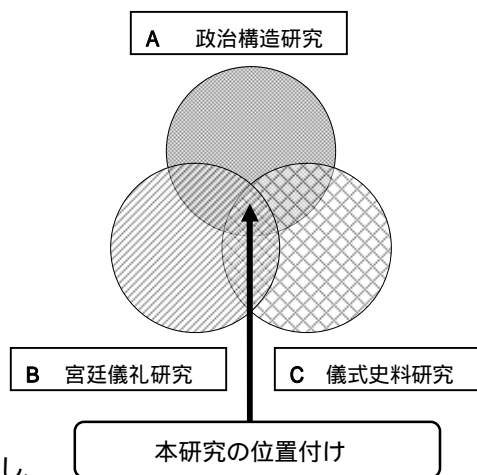


図1：日本古代～中世の朝廷関連研究

2. 研究の目的

本研究は、古代・中世の宮廷儀礼の一つである除目の儀式に着目し、近年その価値が再発見された三條西家旧蔵の未解明の除目書についてその書誌的考察を行う。その史料を手がかりとして、三條西家における除目書の収集・書写活動の一端を明らかにするとともに、古代～中世における摂関家の除目書の相承過程について検討する。また、除目の故実にも着目し、政治制度としての除目研究の基盤を構築することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 三條西家旧蔵の除目書 (『除秘鈔』『除秘鈔附』) の検討

はじめに、三條西家が書写・所蔵した除目書の一例として、明治大学中央図書館所蔵の『除秘鈔』・『除秘鈔附』の検討を行う。この史料は近年三條西家旧蔵の除目書であることが判明した (田島公「三條西家旧蔵『除秘鈔』について」[本文篇]、『東京大学史料編纂所報』47、2012年)。本研究では、その成果を受けて、『除秘鈔』の附属本である『除秘鈔附』について、翻刻と内容の検討を進める。

(2) 摂関家相伝の除目書との比較・検討

次に、摂関家が書写・所蔵する除目儀式書との比較・考察を行う。筆頭公卿として除目の執筆 (除目儀の責任者) をつとめる家柄である九条家・一条家・二条家といった藤原摂関家の中心をなす家が保有する除目書について、九条家本『春除目抄』を中心に検討する。宮内庁書陵部所蔵『春除目抄』『秋除目抄』『春除目抄・中夜』、尊経閣文庫所蔵『春除目抄』などを調査・分析し、三條西家本との比較・検討によって、除目作法の二大流派である九条流と花園流の特色を明らかにする。

(3) 国文学研究資料館所蔵の三條西家旧蔵除目書の検討

上記のほか、国文学研究資料館所蔵の『除目抄 下』『除目聞書』等も三條西家旧蔵本であることが判明しているため、それらの史料についても検討を加える。また、それらと関係する、東京大学史料編纂所所蔵『除目次第私抄』、内閣文庫所蔵『除目抄』などの除目書などを調査・検討し、三條西家における除目書の書写の実態に迫る。

(4) 除目儀からみた古代～中世の政治制度の考察

上記の作業の成果をもとに、除目儀式からみた政治制度・政治構造を考察する。除目書に引用される多数の勅物（貴族の日記や儀式書、任官事例など）の引用形態および除目書自体の系譜関係には、時の権力者の朝廷政治に対する価値観が反映している。そこで、除目儀式の継承過程を跡付けることにより、古代・中世における朝廷の政治制度を解明する新たな研究視角を確立する。

4. 研究成果

(1) 三条西家旧蔵『無外題春除目』の解明

明治大学中央図書館所蔵の『除秘鈔』および『除秘鈔附』について検討を進めた結果、『除秘鈔』に続いて『除秘鈔附』も三条西家の旧蔵であることが確定的となった。それをふまえ、『除秘鈔附』の翻刻と史料的性格の検討を進め、全文の翻刻が完了した。

また、史料の内容に関して、当該史料に引用される除目の申文と『大間成文抄』引載の申文との比較や、登場する人名の比定を進め、書写年代や作成年代について検討した。そして当該史料を新たに『無外題春除目』と称すこととした。

外題・内題・奥書等の書誌情報を欠く除目書である『無外題春除目』は、天文年間に三条西家で書写された除目書であると推定されること、内容は二種類の除目書が混在しており、その大部分をなす甲群は、藤原（九条）良経編の九条家本『春除目抄』とほぼ同内容を持つもので、部分的に挿入される乙群は、九条家流の除目作法に関する問答形式の故実書であり、問答の応答者は九条家流作法を相承する有職・藤原（松殿）基房と推定されること、乙群については、石川県立歴史博物館所蔵の「畠山義総関係文書」の一部の紙背に同史料に継ぐかと推定されるものがあり、加えて、表面の文書が三条西家に宛てたものであることから、乙群も三条西家によって書写された除目故実書であること、三条西家では公保・実隆・公条の三代にかけて撰家家に相伝される除目書の閲覧・書写が行われ、その過程で『無外題春除目』が書写され、三条西家が二条家経由で九条家流作法を伝承していた可能性が高いことを論証することができた。

上記の成果を、明治大学と東京大学史料編纂所の協力を得ながら、『無外題春除目』の解説として、その翻刻とともに刊行した（明治大学除目書刊行委員会編『明治大学図書館所蔵 三条西家 除目書』八木書店出版部、2021年）。

(2) 九条家本『春除目抄』との比較・検討

三条西家が書写した九条家流の除目書である『無外題春除目』と、九条家相伝の除目書である『春除目抄』について、内容の比較・検討を行った。その際、九条家本『春除目抄』のテキストデータを作成した。『無外題春除目』の乙群の内容については、九条家流の作法と密接に関連する箇所が多いが、これは九条家本『春除目抄』記載の除目作法に則した除目作法の問答集であると考えられ、『春除目抄』の補遺的性格を持つ。問答に答えるのは、藤原忠通由来の九条家流作法を相承する有職・藤原（松殿）基房と思われるが、問者は基房と公事問答をしたことがある九条良経・道家のいずれかと推測される。

(3) 国文学研究資料館所蔵の三条西家旧蔵除目書の検討

三条西家旧蔵『無外題春除目』と密接に関係すると思われる、国文学研究資料館所蔵『除目抄下』の原本調査と写真撮影を行い、筆跡から当該史料が三条西公条によって書写されたものと推定されることを確認した。また、『除目抄下』の翻刻を進めたが、上巻が逸失しているため書誌の全貌が分かりづらく、また類似の史料も見出せていないため、引き続き調査を進める必要がある。同じく国文学研究資料館所蔵『除目聞書』・『除目<管文并頭官挙>』についても、原本調査と写真撮影を行った。この二点に関しては、『除目抄下』と直接的な関係は見出せないようである。

(4) 古代～中世の除目儀に関する考察

除目儀の内容の分析に関しては、中世に除目の体系的な故実書として編纂された洞院公賢編『魚魯愚鈔』・『魚魯愚別録』の内容を検討するうちに、古代から中世まで相承されていた故実を見つけたため、それについて検討した。すなわち、『魚魯愚別録』に見える除目竟日に執筆が魚類を内記所に送るという作法が平安時代以来の故実を継承したものであり、この故実が除目（官職）と除目書の「魚」字とを結び付ける根拠となっている可能性を示した（『除目と魚 ある除目故実から』『日本歴史』905、2023年）。

そのほか、研究期間中に公表できなかったその他の成果については、引き続き公開の準備を進める。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 志村佳名子 | 4. 巻 1015 |
| 2. 論文標題 太政官政務儀礼の形成と展開 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 歴史学研究 | 6. 最初と最後の頁 32-40 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 志村佳名子 | 4. 巻 905 |
| 2. 論文標題 除目と魚 ある除目故実から | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 日本歴史 | 6. 最初と最後の頁 64-71 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件/うち国際学会 0件）

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 志村佳名子 |
| 2. 発表標題 太政官政務儀礼の形成と展開 |
| 3. 学会等名 歴史学研究会2021年度大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 明治大学除目書刊行委員会編（志村佳名子「解説 無外題春除目」収録） | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 八木書店出版部 | 5. 総ページ数 344 |
| 3. 書名 明治大学図書館所蔵三条西家本除目書 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 田島公編（田島公「明治大学図書館所蔵三条西家旧蔵本『除秘鈔』の基礎的研究」収録／研究協力者） | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 思文閣出版 | 5. 総ページ数 423 |
| 3. 書名 禁裏・公家文庫研究 第8輯 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| 志村佳名子「三条西家本『無外題春除目』とその伝来 九条良経撰『春除目抄』との関係を中心に」（金鶏会館連続公開講座「三条西家本「除目書・同紙背文書」を読む 「明治大学図書館所蔵三条西家本除目書」影印本の刊行を記念して」講演集、東京大学史料編纂所、2022年、pp.52-59） |
| 志村佳名子「古代・中世の除目儀と除目書」（金鶏会館連続公開講座「三条西家本「除目書・同紙背文書」を読む 「明治大学図書館所蔵三条西家本除目書」影印本の刊行を記念して」講演集、東京大学史料編纂所、2022年、pp.10-15） |

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--------------------------------------|----|
| 研究協力者 | 田島 公 (TAJIMA ISAO) (80292796) | 東京大学・史料編纂所・教授 (12601) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|